

平成29年度
小樽商科大学

【後期】

公開講座・公開授業案内



輪足は地域に。
視点は世界に。

商大は
グローバル
大学。

目次

I	ご挨拶	1
II	公開講座のご紹介	2
1	公開講座について	2
2	公開講座の受講手続きについて	3
3	公開講座概要	4
III	公開授業（通常授業公開講座）のご紹介	5
1	公開授業について	5
2	オリエンテーション（ガイダンス）について	6
3	公開授業の受講の手続きについて	7
4	授業内容	9
2017年度	小樽商科大学 公開講座・公開授業 申込書	30
2017年度	行事予定	31

I ご挨拶

小樽商科大学は、前身の小樽高等商業学校時代を含めると、105年の歴史を重ねて参りました。全国でも最小クラスの国立大学である本学が、このような長い伝統を築き上げることができたのも、小樽を始めとする地域の方々の様々な支援があったお蔭と、厚く御礼申し上げます。現在本学は、「No.1 グローカル大学宣言」のもと、グローバル教育と並びローカル関連科目、即ち地域を学び地域について考える科目の充実を図っております。その意味におきましても、蓄積してきた知的ノウハウを地域に還元することを、本学は教育・研究と並ぶ重要な使命であると考え、本年度も公開授業・公開講座を開講することといたしました。

公開授業は、17：45から20：55の間で行われる夜間主コースの通常授業を学外の方にも聴講可能にする制度です。夜間主コースの前身は本学短期大学部であり、短期大学部は戦後、勤労者向け高等教育機会を拡充させたいという地元の強い要請から設置された経緯があります。その意味からも、夜間主コース科目を公開授業とすることは、コース本来の趣旨に合致することでしょう。

公開講座は、「語学の商大」の面目を施すべく、本年度後期は2か国語を開講いたします。公開講座は殆どの大学が実施しておりますが、本学のような集中語学講座は、北日本では他に例がありません。現代は資格の時代とも呼ばれ、社会に出てからも勉学に親しむ機会が増えておりますが、そうした「学び」の基本中の基本である語学を学び直すのも、頭脳のリフレッシュには一興ではないでしょうか。一人でも多くの方々が、本学公開講座にご参加いただき、学ぶ喜びを再び体験していただくことを、心より願っております。

教育担当副学長 鈴木 将史

Ⅱ 公開講座のご紹介

1. 公開講座について

本学では、生涯学習に対する社会的要請に応えるとともに、地域社会と大学との連携を深めるために、毎年、一般市民の方々のための公開講座を開催しています。今年度後期は本学言語センターより、語学 2 講座を用意しました。

(1) 2017 年度後期開設講座

講座名	講座レベル	開催日	実施場所	定員
外国人による集中中国語講座 (後期)	初・中級	9/22～12/1 毎週金曜日 (11/3 を除く)	BL3	10～20 名
外国人による集中韓国語講座 (後期)	初・中級	10/3～12/5 毎週火曜日	BL3	15 名

- ◇講座は、全 10 回です。
- ◇講座の詳細は、P.4 をご覧ください。
- ◇受講料は、各講座 7,200 円です。

(2) 実施時間について

講座は、18:30-20:00 で行われます。

(3) 会場について

教室の場所は P.32～33 の学内案内図でご確認ください。

2. 公開講座の受講手続きについて

◆◇公開講座の申込について◇◆

受付期間

講座開始の3日前まで（土日祝日を除く）

※講座により、開始日が異なりますので、ご注意ください。

※各講座、定員になり次第、受付を終了させていただきますので、ご了承ください。

申込方法

1. 申込（窓口・郵送）

① 窓口：受講申込書（P.30）を、以下の申込先の窓口までご持参ください。

② 郵送：必要書類を以下の申込先までご郵送ください。

【必要書類】

・受講申込書（P.30）

・返信用封筒（住所・氏名（様）記入・82円切手貼付）

2. 受講料の振込

申込受付の際に、振込用紙をお渡しいたしますので、申込日より1週間以内に受講料をお支払いください。（郵送で申し込まれた方には、同封いただいた返信用封筒に、振込用紙を入れてお送りいたします。）なお、一旦お支払いいただいた受講料は払い戻しできませんので、ご注意ください。

◆◇公開講座の受講について◇◆

- ① 自家用車で来学される方は、受講申込書に車両ナンバー等をご記入ください。大学内への入構許可証を発行いたします。（講座の開講曜日のみ有効です。）臨時入構許可証をフロントガラスから視認できる位置に掲示の上、指定された駐車場をご利用ください。
- ② 附属図書館の利用について 一般市民の方はどなたでも、本学の図書館を利用することが可能です。ご利用を希望される場合は ID カードを作成する必要がありますので、図書館カウンターで所定の手続きをお取りください。
- ③ 公開講座において、出席率 50%以上の方には、修了証明書を発行し、講座終了後に郵送いたします。

問い合わせ・申込先：小樽商科大学教務課学部教務係
（事務棟 1 階・学生センターカウンター）

〒047-8501 小樽市緑 3 丁目 5 番 21 号

TEL：0134-27-5244 FAX：0134-27-5243

E-mail:gakubu@office.otaru-uc.ac.jp

受付時間 8：30～19：30（土日祝日を除きます。）

3 公開講座概要

外国人による集中中国語講座（後期）	
<p>この講座は、初級から中級へのレベルアップを目的とします。受講生ひとりひとりのレベルに合わせて授業を行っていく予定です。初級段階においては、中国語の発音とその表記法（ピンイン）および基本的な常用表現を学びます。中級段階においては、基礎的な文法項目、語彙と実践的な会話表現を学びます。</p> <p>中国語の習得には、なにより発音を身につけることが重要です。この講座では、受講生の発音指導を行いつつ、日常会話で使用する表現の習得を目指します。また、中国語の学習を通して、中国の文化、習慣や現代中国事情についての理解も深めていきます。</p> <p>授業は、基本的に教科書（初回の際に説明します）に沿って進めます。教科書は印刷して教室で配布しますが、プリントも適宜配布します。</p> <p>中国語の力を身につけられるようしっかりとサポートしますので、まずは始めてみましょう。</p>	
担当講師：呉 秀娟	
開催場所：本学 2 号館 5 階 BL3	
受講料：7,200 円	毎週金曜日（18:30-20:00） 全 10 回 9/22、9/29、10/6、10/13、10/20、10/27、11/10、11/17、 11/24、12/1
募集定員：10～20 名	

外国人による集中韓国語講座（後期）	
<p>初心者から中級者向けの講座です。前期に学習した内容を踏まえた上で、基本的な文構造を理解することを目標とします。授業では、会話練習を重点的に行い、カジュアルなコミュニケーション能力をより高めます。また映像教材を加えながら、日常生活ですぐに使える表現を学習します。その他に、韓国の実用的な情報（韓国文化・歴史、生活など）にも少し触れ、韓国語の理解を深めながら、実践的な会話力を高めます。</p>	
担当講師：韓然善（ハン・ヨンソン）	
開催場所：本学 2 号館 5 階 BL3	
受講料：7,200 円	毎週火曜日（18:30-20:00） 全 10 回 10/3、10/10、10/17、10/24、10/31、11/7、11/14、11/21、 11/28、12/5
募集定員：15 名	

Ⅲ 公開授業（通常授業公開講座）のご紹介

.....1. 公開授業について

本学では、一般市民の方々が学生とともに受講できるよう夜間主コースの正規授業の一部を開放しています。この機会に、キャンパスライフを体験しながら、本学の授業を皆様のブラッシュアップ、スキルアップにお役立てください。

※「小樽商科大学通常授業公開講座」通称「公開授業」：試験、レポートの提出等は行わず、授業視聴のみの参加となります。単位、資格等は取得することができませんのご注意ください。

■2017 年度通常授業公開講座一覧 後期科目（9月25日～翌年1月29日開講）

時間割	開講科目名	担当教員	募集人数	内容	科目区分		
月	6 17:45-19:15	心理学Ⅱ	杉山成	若干名	P.9	共通科目	
		社会思想史Ⅱ	西永亮	若干名	P.9	共通科目	
		化学Ⅱ	沼田ゆかり	若干名	P.10	共通科目	
		現代企業管理論Ⅰ	金鎔基	5名	P.10	商学教科科目	
		情報と職業※1	中山由之	若干名	P.11	社会情報学教科科目	
7 19:25-20:55	知識科学基礎	芳澤聡	制限なし	P.12	社会情報学教科科目		
火	6 17:45-19:15	人間と文化論	久保田顕二	若干名	P.12	専門共通科目	
		ドイツ語Ⅰ-2	副島美由紀/杉浦康則	若干名	P.13	外国語科目	
		フランス語Ⅰ-2	村山紀明/尾形弘人	若干名	P.13	外国語科目	
		中国語Ⅰ-2	章天明/加藤眞司	若干名	P.14	外国語科目	
		応用ミクロ経済学	佐野博之	10名	P.15	経済学教科科目	
		国際市場論	王力勇	5名	P.15	商学教科科目	
		知的財産法	才原慶道	制限なし	P.16	企業法学科科目	
		コンピュータネットワーク論	三谷和史	制限なし	P.17	社会情報学教科科目	
		7 19:25-20:55	基礎数学	赤塚広隆	若干名	P.17	共通科目
		水	6 17:45-19:15	現代社会と歴史論	荻野富士夫	若干名	P.18
人間科学論	中川喜直			若干名	P.18	専門共通科目	
言語文化論	山田久就/章天明/ 石井登/中津川雅宣			制限なし	P.19	専門共通科目	
行政法Ⅰ	斎藤健一郎			制限なし	P.19	企業法学科科目	
7 19:15-20:55	経営管理論	加賀田和弘	5名	P.20	商学教科科目		
木	6 17:45-19:15	言語学	山田久就	制限なし	P.20	共通科目	
		生物学Ⅱ	八木宏樹	若干名	P.21	共通科目	
		市場システム論Ⅱ	高宮城朝則	5名	P.21	商学教科科目	
		簿記原理	A 二村雅子	5名	P.22	商学教科科目	
			B 坂柳明	5名	P.22	商学教科科目	
		商法Ⅰ	河森計二	制限なし	P.23	企業法学科科目	
	プロジェクトマネジメント基礎	平沢尚毅/深田秀実	制限なし	P.23	社会情報学教科科目		
	7 19:25-20:55	ドイツ語Ⅰ-2	副島美由紀/杉浦康則	若干名	P.13	外国語科目	
		フランス語Ⅰ-2	村山紀明/尾形弘人	若干名	P.13	外国語科目	
		中国語Ⅰ-2	章天明/加藤眞司	若干名	P.14	外国語科目	
公共政策		佐野博之	10名	P.24	経済学教科科目		
金	6 17:45-19:15	国際法	張博一	制限なし	P.25	企業法学科科目	
		経済法	姜連甲	制限なし	P.26	企業法学科科目	
	7 19:25-20:55	情報処理基礎	佐藤剛	制限なし	P.27	社会情報学教科科目	
		現代企業管理論Ⅱ	林松国	5名	P.27	商学教科科目	
	社会情報入門	阿部孝太郎/小泉大城	制限なし	P.28	社会情報学教科科目		

※1 ①パソコンの使用（「インターネットの検索」及び「ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの使用」）ができること。

②USBメモリ（4GB以上）及びイヤホンを準備できること

2. オリエンテーション（ガイダンス）について

受講の試聴期間 受講を希望される方に、授業の概要を把握し、受講する科目を決定する際の参考とするため、本学学生のオリエンテーション期間を試聴期間として提供します。

試聴期間：平成 29 年 9 月 25 日（月）～9 月 29 日（金）

この期間は、学生と一緒にガイダンスを聞いて、授業を選択するかどうかの参考にしてください。オリエンテーションは 1 回の時間を 40 分として、10 分の休憩をはさみ、1 講の間に同じ内容のオリエンテーションを 2 回実施します。

●●● オリエンテーション（ガイダンス）時間割 ●●●

★ 外国語科目はオリエンテーションを行わずに、初回から授業を行います。
初回の授業を試聴日とします。

	科目名	試聴日	講義室
後期	ドイツ語Ⅰ-2	9月26日（火）6講目	BL2
	フランス語Ⅰ-2	9月26日（火）6講目	401
	中国語Ⅰ-2	9月26日（火）6講目	301

【後期】

日時	6講目		7講目	
	1回目 17:45～18:25		1回目 19:25～20:05	
	2回目 18:35～19:15		2回目 20:15～20:55	
	科目名	講義室	科目名	講義室
9月25日（月）	心理学Ⅱ	407	知識科学基礎	406
	社会思想史Ⅱ	211		
	化学Ⅱ	305		
	現代企業管理論Ⅰ	406		
	情報と職業	(情)第3		
9月26日（火）	人間と文化論	211	基礎数学	211
	応用ミクロ経済学	406		
	国際市場論	174AL		
	知的財産法	413		
	コンピュータネットワーク論	407		
9月27日（水）	現代社会と歴史論	211	経営管理論	305
	人間科学論	307		
	言語文化論	BL2		
	行政法Ⅰ	213AL		
9月28日（木）	言語学	BL2	公共政策	305
	生物学Ⅱ	305	国際法	413
	市場システム論Ⅱ	406		
	簿記原理A	210		
	簿記原理B	104		
	商法Ⅰ	413		
	プロジェクトマネジメント基礎	213		
9月29日（金）	経済法	413	現代企業管理論Ⅱ	406
	情報処理基礎	401	社会情報入門	407

※なお、講義室は変更になる場合がありますので、附属図書館 2 階入口前の掲示板でご確認ください。

3 公開授業の受講の手続きについて

◆◇公開授業の申込について◇◆

受付期間

平成 29 年 9 月 25 日（月）～平成 29 年 9 月 29 日（金）

※各講座、定員になり次第、受付を終了させていただきますので、ご了承ください。

申込方法

1. 申込（窓口・郵送）

① 窓口：受講申込書（P.30）を、以下の申込先の窓口までご持参ください。

② 郵送：必要書類を以下の申込先までご郵送ください。

【必要書類】

- ・受講申込書（P.30）
- ・返信用封筒（住所・氏名（様）記入・82 円切手貼付）

2. 受講料の振込

申込受付の際に、振込用紙をお渡しいたしますので、申込日より 1 週間以内に受講料をお支払いください。（郵送で申し込まれた方には、同封いただいた返信用封筒に、振込用紙を入れてお送りいたします。）なお、一旦お支払いいただいた受講料は払い戻しできませんので、ご注意ください。

語 学 科 目：13,200 円/科目

語学以外の科目：9,200 円/科目

問い合わせ・申込先

〒047-8501 小樽市緑 3 丁目 5 番 21 号

小樽商科大学教務課学部教務係

（事務棟 1 階・学生センターカウンター）

TEL：0134-27-5244

FAX：0134-27-5243

E-mail:gakubu@office.otaru-uc.ac.jp

受付時間 8：30～19：30（土日祝日を除きます。）

◆◇公開授業の受講について◇◆

① 本学への来学について

自家用車での来学を希望する場合、受講申込書に車両ナンバー等をご記入ください。受講期間中のみ有効の入構許可証を発行します。

② 受講方法・修了証書

(授業前) 学生センター学部教務係の窓口へ立ち寄り、用意されている出席簿に出席状況を記録してください。出席率が70%以上で、通常公開授業公開講座修了証書を発行いたします。

(授業中) 申込後にお渡しする受講証を机上の見やすいところに置いて、受講してください。

③ 講義室の変更・授業の休講について

授業の実施状況により、講義室が変更となる場合があります。附属図書館2階ホール

(P.32)に掲示をしておりますので、確認してください。また、休講となる授業がある場合も、同様の場所に掲示をいたします。休講の情報については、インターネットからも閲覧することができます。

休講情報：<http://stu.kyomu-s.otaru-uc.ac.jp/canceled>

④ 附属図書館の利用について

一般市民の方はどなたでも、本学の図書館を利用することが可能です。ご利用を希望される場合は、IDカードを作成する必要がありますので、図書館カウンターで所定の手続きをお取り下さい。

4. 授業内容

科目名	心理学Ⅱ			ガイダンス日	9/25	後期
担当教員	杉山 成			募集人数	若干名	
開講時間	月曜 6 講	教室	407	受講料	9,200 円	
1.授業の目的・方法 基礎科目では、心理学を初めて学ぶ学生のために、基本的な理論や概念の解説を行います。心理学Ⅱでは、パーソナリティ心理学・発達心理学の領域を中心に、考え方や行動の個人差と心理的適応の関連について解説します。基本的に講義形式で進めますが、必要に応じて心理テストの実習やグループワーク等も行う予定です。				6.メンタルヘルス：ストレスのコントロール・精神疾患の理解 7.ライフサイクルと適応：ライフサイクル理論・キャリア発達		
2.授業内容 1. オリエンテーション 2. パーソナリティの理論：自分を知ること・類型論と特性論 3. パーソナリティの測定：心理テストの形式と要件・テスト実習 4. 人間関係の発展：対人魅力・人間関係の段階モデル 5. コミュニケーション：積極的傾聴の方法・対人葛藤の解決				3.履修上の注意 基本的な受講マナー（遅刻をしない、私語をしない、教室内を歩き回らない、携帯電話を使用しないなど）を守れない学生の受講は禁じます。		
				4.使用教材 教科書は使用せず、適宜参考文献を紹介し、また、資料プリントを配布します。		

科目名	社会思想史Ⅱ			ガイダンス日	9/25	後期
担当教員	西永 亮			募集人数	若干名	
開講時間	月曜 6 講	教室	211	受講料	9,200 円	
1.授業の目的・方法 本科目は、「文明 civilization」と「文化 culture」の対立というドイツ思想に特有の認識枠組みを軸に、20世紀の社会思想的展開を概観します。20世紀の西洋において「文明」と「文化」は、実際の社会問題と関連しながら、ときには相互に対立しあう概念として、またときにはほぼ同義の概念として発展してきました。講義では、両者の対立に重点をおき、重要な思想家を何人か取りあげながら、両概念がどのような社会的意味を担ってきたのかを解説します。それを通じて、21世紀における「文明」と「文化」の意義を批判的に分析する力を養います。				I -2 文化革命としてのロシア革命——ルカーチ I -3 啓蒙の弁証法——ホルクハイマー、アドルノ、エリヤス II 多文化主義の諸相 II -1 解放の原理としてのナショナリズム——バーリン II -2 ケベック問題をめぐる承認と差異の政治——Ch. テイラー II -3 移民問題における憲法愛国主義——ハーバーマス		
2.授業内容 はじめに——文明と文化、普遍と特殊 I 文明の崩壊——20世紀の幕開け I -1 文化戦争としての第1次世界大戦——ジンメルと Th. マン				3.履修上の注意 配布プリント、板書、および講義を素材にして自分のノートをつくること。思考は与えられるのではなく自ら主体的になされるものです。		
				4.使用教材 プリントを配付します。参考文献は適宜紹介します。		

科目名	化学Ⅱ			ガイダンス日	9/25	後期
担当教員	沼田 ゆかり			募集人数	若干名	
開講時間	月曜 6 講	教室	305	受講料	9,200 円	
1.授業の目的・方法 我が日常使う食品、衣料品、電化製品はもとより、地球、生き物、そして我々自身、あらゆるものは物質できており、化学は生活を支える役割を果たしている。このため、化学に関する正しい知識は理系・文系を問わず、すべての人に必要である。本授業では化学Ⅰに引き続き、化学の基礎を平易に解説する。必要に応じてパワーポイントを活用して説明を行う。 本科目の履修を通して、獲得が期待される能力・技能は以下の通りである。				<ul style="list-style-type: none"> • 生体を構成する物質 糖類 タンパク質 脂質 核酸 • 生命を支える物質 酵素 生体内でのエネルギー生産—物質代謝— 核酸と遺伝情報 ビタミン—物質代謝の手助け役— 		
2.授業内容 <ul style="list-style-type: none"> • 簡単な有機化合物 有機化合物とは 炭化水素 異性体 酸素、窒素、ハロゲンを含む有機化合物 複素環式化合物 				3.履修上の注意 化学の知識を学ぶと同時に、科学的なものの考え方である「筋道を立てて考える論理的な思考」も習得できるよう、心がけること。 化学は知識の積み重ねが必要な学問である。初学者が授業内容を理解するためには、高校で化学を学んだ人よりもある程度の努力が必要であることに注意すること。		
				4.使用教材 新版 教養の現代化学(第2版) (三共出版)		

科目名	現代企業管理論Ⅰ			ガイダンス日	9/25	後期
担当教員	金 鎔基			募集人数	5 名	
開講時間	月曜 6 講	教室	406	受講料	9,200 円	
1.授業の目的・方法 本講義では、企業及び組織における「人の管理」を理解するための基本理論とその簡単な応用方法を、可能な限り具体的事例やトピックを中心に学習する。				3.履修上の注意 理由の如何を問わず、欠席4回以上は不可にする。		
2.授業内容 教育と就職 人材の育成 内部昇進と外部採用 評価と報酬管理 モニタリングとインセンティブ 非正規職問題 ダイバーシティ・マネジメント 労使関係の主要トピック				4.使用教材 基本教材として、講義用スライドのコピーを事前に配布する。そこに丹念にメモを取っておくのが重要である。より深い理解を目指す学生のため、テーマごとの参考文献をその都度、知らせる。		

科目名	情報と職業			ガイダンス日	9/25	後期
担当教員	中山 由之			募集人数	若干名	
開講時間	月曜 6 講	教室	406	受講料	9,200 円	
1.授業の目的・方法 本科目は、Information and Communication Technology 社会の進展に伴う産業構造や就業構造の変化、情報産業に携わる職業人の在り方などについて学び、今後の情報産業の方向性についての考察を目標とする。 本科目の履修を通して獲得が期待される能力・技能は以下のとおりである。 ・情報産業、情報処理技術者に関する知識を深化することができる。				第 12 回 情報技術者としての心構え <情報技術者に関する情報収集のまとめ> 第 13 回 情報技術者の義務と責任<情報技術者に関する情報収集のまとめの発表と評価> 第 14 回 ICT 社会の問題点<情報技術者に関する情報収集のまとめの発表と評価> 第 15 回 近未来：ICT 社会、情報産業の予想<情報技術者に関する情報収集のまとめの修正及び提出>		
2.授業内容 第 1 回 オリエンテーション、学内 LAN、manaba の利用、メールの転送<同時進行：教材の作成及び発表> 第 2 回 コピキタスネットワーク社会、授業ノートの作成<PortableApps.com の紹介> 第 3 回 情報化と社会<LibreOfficePortable の紹介> 第 4 回 情報産業と情報技術<教材の作成手順の説明（プレゼンテーションソフト）> 第 5 回 情報産業の種類 <教材のテーマ：情報産業に関する情報収集> 第 6 回 情報産業の役割 <情報産業に関する情報収集のまとめ> 第 7 回 情報産業にかかわる法規 <情報収集結果の発表、質疑応答及び評価> 第 8 回 情報産業と情報モラル <情報収集結果の発表、質疑応答及び評価> 第 9 回 Key Competencies (DeSoCo) <情報収集結果の発表、質疑応答及び評価> 第 10 回 情報技術者の種類 <教材の作成手順の説明（表計算ソフト）> 第 11 回 情報技術者の役割<教材のテーマ：情報技術者に関する情報収集>				3.履修上の注意 本授業では情報処理センターのパソコンを使用するので、事前に学内 LAN の ID 及びパスワードを確認しておくこと。 【参考書等】 「中学校学習指導要領」（平成 20 年 3 月・文部科学省） < http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/chu/_icsFiles/afie/ldfile/2010/12/16/121504.pdf > 「高等学校学習指導要領」（平成 21 年 3 月・文部科学省） < http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afie/ldfile/2011/03/30/1304427_002.pdf > 「教育の情報化に関する手引」（平成 22 年 10 月・文部科学省） < http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/1259413.htm > 北海道の「教育の情報化」（平成 21 年 3 月・北海道立教育研究所附属情報処理教育センター） < http://www.ict.hokkaido-c.ed.jp/ict/cn21/d_1.html >		
				4.使用教材 【教科書】 伏見正則他著『情報産業と社会』（実教出版）		

科目名	知識科学基礎			ガイダンス日	9/25	後期
担当教員	芳澤 聡			募集人数	制限なし	
開講時間	月曜 7 講	教室	406	受講料	9,200 円	
1.授業の目的・方法 記憶と学習、および脳科学の知見から人間の脳の情報処理を理解する。次に、脳を模した工学モデル、及び認知科学モデルを学習し、コンピュータを用いたシミュレーションを通してその動作を確認する。 また、機械学習の基礎となるパターン認識の手法を紹介する。				3.履修上の注意		
2.授業内容 ・記憶と脳 ・脳の構造 ・工学モデル(アソシアトロン、パーセプトロン、相互結合型ネットワークモデル) ・認知科学モデル(意味ネットワーク、推論モデル) ・画像処理(エッジ抽出、テンプレートマッチング、ノイズ除去) ・パターン認識				4.使用教材 「思考と脳」、渡邊正孝、サイエンス社、2005、ISBN4-7819-1107-2 他に参考文献を適宜示す。		

科目名	人間と文化論			ガイダンス日	9/26	後期
担当教員	久保田 顕二			募集人数	若干名	
開講時間	火曜 6 講	教室	211	受講料	9,200 円	
1.授業の目的・方法 哲学や倫理学(あるいは現代思想)の古典的な文献に、邦訳によって触れることを通して、これらの学問における基本的な考え方を身に付けます。 授業の進め方としては、「講義」と「文献の輪読」という二つの形式を双方ともに取り入れます。すなわち、まず担当者が、取り上げる哲学者や倫理学者(あるいは思想家)についての、または彼らの代表作についての、解説を手短に行い、そのあと、配布された文献を全員で輪読し、かつ、お互いの意見を交換します。講義と輪読とは、時間的に1対2くらいの割合になるものと思われます。扱う文献は3点くらいを予定しています。輪読に際しては、もしかすると、回数ごとに報告担当者を決めておくというやり方をとるかもしれませんが(報告担当者は、割り当てられた一定範囲の要約と、その範囲における疑問点や問題点の提示とを行います)。 ただ耳から説明を聞くのではなく、じかに文献に接してその内容をつかみとろうと努めることによって、基礎科目の「哲学」や「倫理学」で学んだこと(あるいは学んでいること)を、より確かなものにし、かつ発展させる、というのがこの科目の目的です。				3.履修上の注意 できれば、基礎科目の「哲学」か「倫理学」を、過去においてすでに履修したか、またはこの授業と並行して履修している、という学び方が望ましいのですが、しかし、そのことは別段、この授業を履修するための条件とはなりません。この授業によってはじめてこれらの分野に接する、という学び方でも差し支えありません。		
2.授業内容 以下のような哲学者・倫理学者や思想家の考え方を、順次学んでいきます。 古代：プラトン 近代：デカルト 現代：サルトル、フロイト				4.使用教材 以下の古典的な著作の中から選ぶことを予定しています。各著作につき、その全体ではなく、興味深くて、かつ比較的平易な部分だけを選び出して読みます。 プラトン著：『ゴルギアス』、『国家』など デカルト著：『方法序説』、『省察』など サルトル著：『実存主義とは何か』など フロイト著：『精神分析入門』など これらの候補のうちから最終的に何を学ぶかは、履修者の希望を聴取した上で決めます。また、ほかにリクエストがあればそれも考慮に入れます。 テキストは、すべてコピーで済ます予定です。		

科目名	ドイツ語 I-2		ガイダンス日	—	後期
担当教員	副島 美由紀、杉浦 康則		募集人数	若干名	
開講時間	火曜 6 講 木曜 7 講	教室	火曜：BL2 木曜：307	受講料	
1.授業の目的・方法 ドイツ語 I-2 は「会話」「文法」「生活文化の紹介」に配慮した総合教科書（CD 付き）の後半部分を使って週 2 回（火・木）の授業を行ないます。文法はゆっくりと進み、会話練習、作文練習を豊富に織り込みながら、最終的に総合的なドイツ語力の向上を目指します。また、折に触れてドイツの文化・風俗を紹介し、ヨーロッパ文化への理解も更に深めていきます。外国語の学習は、あくまで能動的な学習態度が重要です。受講者には、受身にならず、自分から口を開き、自発的なドイツ語でのコミュニケーション練習が求められます。語学の学習には王道はなく日々の勉強が大切となりますが、本来は楽しいものです。後期もまた、ドイツ語を積極的に楽しく勉強していきましょう。			2.授業内容 1-4 週：【現在完了】【副文】【過去形】 5-8 週：【受動態】【zu 不定詞】 9-12 週：【形容詞】【再帰代名詞】 13-15 週：【関係代名詞】【接続法Ⅱ式】など		
			3.履修上の注意 火曜と木曜の授業は連動しており、2 単位は一括して出ますから各曜日もれなく出席すること。語学は毎日少しずつでも勉強するように心がけましょう。 尚、ドイツ語 I-2 はドイツ語 I-1 を修得済みでなければ履修できません。		
			4.使用教材 『シュトラッセ・ノイ Ver.2』（新野守弘他著、朝日出版社、2,300 円）		

科目名	フランス語 I-2		ガイダンス日	—	後期
担当教員	村山 紀明、尾形 弘人		募集人数	若干名	
開講時間	火曜 6 講 木曜 7 講	教室	401	受講料	
1.授業の目的・方法 フランス語の基礎的な運用能力（話す、聞く、読む、書く）の養成を目指します。口、耳、目、手を総動員して練習に取り組んでください。大いに間違いを繰り返しながら、少しずつ着実に定着させていきましょう。皆でわいわいやりながら、しかしポイントでは集中して、フランス語という新しい世界を楽しみましょう。			2.授業内容 各課のテーマは下のとおりです。 1 課：アルファベ、発音 2 課：名詞、不定冠詞、定冠詞 3 課：「～である」 4 課：「もっている」、部分冠詞、否定文 5 課：第一群規則動詞、疑問文		
			3.履修上の注意 辞書については追って指示する。		
			4.使用教材 太原孝英他著『新ケンとジュリー 1』、駿河台出版社		

科目名	中国語 I -2		ガイダンス日	—	後期
担当教員	章 天明、加藤眞司		募集人数	若干名	
開講時間	火曜 6 講 木曜 7 講	教室	火曜：301 木曜：308	受講料	
1.授業の目的・方法 ＜章 天明＞ 中国語 I -1 で得た基礎の上に立ち、語彙と基本文法を引き続き学び、練習問題及びペアワークなどで繰り返し訓練します。更に多くの常用度の高い基本語彙および基本文型覚え、教科書の会話文に出てきた会話表現を中心に口慣らしをして、ナチュラルスピードの会話も取り入れながら、表現力を身に付けるようにします。LL 教室で PC や Web も使う予定です。 ＜加藤 眞司＞ 中国語 I -1 で習得した中国語の基礎を踏まえて、中国語の能力（話す（やり取り、表現）力・聞く力・読む力・書く力）の更なる向上を目指します。日常生活の様々なシーンで必要とされる会話表現が身につくよう、繰り返し練習します。前期よりやや長い会話や複雑な語法に取り組みます。引き続き、受講者が授業に積極的に参加できるように、会話練習では学生同士でペアを組み練習を繰り返します。また、中国語を楽しく学び理解を深めるために、中国文化などについて触れながら授業を進めていきます。			3.履修上の注意 ＜章 天明＞ 学生へのメッセージ： ・予習と復習をしっかりと、授業中は楽しく学びましょう。 ・「書読百遍、其意自現」→「読書百遍義自ら見る」教科書の本文を何回も繰り返して朗読して、暗記してください。 ＜加藤 眞司＞ 教材付録のDVD・CDを活用しながら予習・復習をしっかりと、積極的に（授業中は大きな声を出す！など）授業に参加して下さい。中国語そして中国文化を楽しく学びましょう！		
2.授業内容 ＜章 天明＞ 発音訓練を繰り返し、もっと綺麗な中国語の発音ができるように十分練習します。さらに多くの語彙、やや複雑な基本文型を学び、「会話」、「トレーニング」、「リスニング」、及び「書取りテスト」、「口頭試験」などを用いて、より実用的な会話と文章を勉強します。主な学習項目は次の通りです。 完了表現、体験表現、比較表現、進行表現、強調表現、連動文、存在文、使役文、方向補語、結果補語、様態補語、二重目的語構文。 ＜加藤 眞司＞ 教科書の問題に取り組みながら、日常生活の様々なシーンで必要とされる会話表現を学習します。会話がやや長く、語法も少し複雑になりますが、使える語彙や表現が増えるよう、練習を繰り返します。また、中国語の発音についてもより正確な発音ができるよう、練習を繰り返します。主な学習項目は下記の通りです。 補語（様態・結果・方向・可能）、使役、持続、存現文、受身、比較、 処置文、助動詞、副詞、時間詞、介詞、慣用句 学習事項の習得度を高めるために、適宜小テスト（リスニング・中国語作文）、発音試験（1回）を行います。			4.使用教材 ＜章 天明＞ 『1冊めの中国語 会話クラス』劉穎、喜多山幸子、松田かの子(白水社)及びプリント ＜加藤 眞司＞ ①『DVD Joyful 中国語—快樂的北京留学—』山下輝彦・張 仕英・田 禾(朝日出版社、2500円+税) ②適宜プリントを配布		

科目名	応用ミクロ経済学			ガイダンス日	9/26	後期
担当教員	佐野 博之			募集人数	10名	
開講時間	火曜 6 講	教室	406	受講料	9,200 円	
1.授業の目的・方法 この講義では、ミクロ経済学の基礎を使って、産業組織論と公共経済学における様々な応用問題に取り組み、ミクロ経済学と現実の経済・社会問題との関連を学ぶことを目的とします。 講義は主に、Power Point とプロジェクターを用いて進められます。また、出席者からの質問を授業中または manaba で受け取り、それらの質問に随時回答していきます。				8～10回 第3章 産業組織論 ・独占と寡占 ・ネットワーク型産業 11～14回 第4章 公共経済学 ・フリーライド問題 ・コモنزの悲劇		
2.授業内容 最初にミクロ経済学の基礎を復習してから、応用ミクロ経済学の分野に欠かせないゲーム理論を学びます。その後、産業組織論と公共経済学に関連するトピックスを取り上げます。 授業スケジュールの概要は以下の通りです。 1～4回 第1章 ミクロ経済学の基礎 ・消費者の行動 ・生産者の行動 ・市場の価格メカニズム 5～7回 第2章 ゲーム理論 ・ゲーム理論の基本 ・戦略形ゲーム ・展開形ゲーム				3.履修上の注意 ・各章の終わりにクイズ形式の小テストを行います。(manaba で行う可能性あり) ・定期試験を1回行います。 ・授業中の質問と manaba を通して提出された質問も評価の対象とします。 ・レポート課題はありません。		
				4.使用教材 テキストは特に指定しませんが、第3章と第4章の講義内容の多くは、以下のテキストを参考にしています。 板谷淳一・佐野博之著『コア・テキスト公共経済学』新世社、2013年。 また、manaba から Power Point のスライドに対応した授業用のノートがダウンロードできます。		

科目名	国際市場論			ガイダンス日	9/26	後期
担当教員	王 力勇			募集人数	5名	
開講時間	火曜 6 講	教室	174AL	受講料	9,200 円	
1.授業の目的・方法 The objective of the course is to provide students with a thorough understanding of the influence of national culture on marketing communication across national borders. After finishing this course, students should be able to analyze cross-cultural communication issues facing global marketers. Classes will use the lecture format for discussing theoretical concepts, and will illustrate these through concrete examples, cases, and commercials from around the world.				3.履修上の注意 Classes will be conducted in English. It will be beneficial for students to have a basic understanding of marketing and to have taken an introductory class in marketing at the undergraduate level.		
2.授業内容 Ch. 1: The Paradoxes in Global Marketing Communications Ch. 2: Global Branding Ch. 3: Values and Culture Ch. 4: Dimensions of Culture Ch. 9: Culture and Advertising Appeals Ch. 10: Executional Advertising Style and Culture				4.使用教材 Textbook: M. de Mooij, Global Marketing and Advertising Understanding Cultural Paradoxes, 3rd (2010) or 4th edition, (2013), Sage.		

科目名	知的財産法			ガイダンス日	9/26	後期
担当教員	才原 慶道			募集人数	制限なし	
開講時間	火曜 6 講	教室	413	受講料	9,200 円	
1.授業の目的・方法				3.履修上の注意		
<p>いわゆる知的財産法のうち、著作権法を取り上げます（他の知的財産法についても、必要に応じて言及することがあります。）。</p> <p>この授業の目的は、著作権法の概要を知ることによって、小説、音楽、絵画、映画、コンピューター・プログラムなどの著作物が、どのように保護されているのかを理解することです。</p> <p>受講者との対話を通しながら、授業を進めていきますので、受講者は、適宜、発言を求められることとなります。</p>				<p>オリエンテーションを含め、毎回、出欠をとります。</p> <p>授業には、使用教材欄に記載した「有斐閣ストゥディア 知的財産法Ⅱ 著作権法」を持参してください。また、著作権法等の条文を授業中に随時参照することができるようにしておいてください。</p> <p>試験では、六法を含め、一切持ち込みは認められませんので、注意してください。</p> <p>やむを得ない事由により試験を受験することができない学生が、代替措置を求める場合は、教務課へ「定期試験欠席届」（通常の「欠席届」とは異なるものです。）を提出するという手続きを必ず踏んでください。なお、各自、「履修の手引き」等において、「定期試験欠席届取扱要項」を参照してください。</p> <p>なお、いわゆる救済措置は一切執りません。</p>		
2.授業内容				4.使用教材		
<p>第 1 回 オリエンテーション</p> <p>第 2 回 著作権制度の概要（1～16 頁）</p> <p>第 3,4,5 回 著作物（17～48 頁）</p> <p>第 6 回 権利の主体（49～72 頁）</p> <p>第 7,8,9 回 著作権の効力と活用（73～110 頁）</p> <p>第 10,11 回 著作権の制限と消滅事由（111～148 頁）</p> <p>第 12 回 著作者人格権（149～167 頁）</p> <p>第 13,14,15 回 著作権の侵害とその救済（195～232 頁）</p> <p>（括弧内は下記使用教材の該当頁を示します。）</p> <p>上記はあくまでも目安です。授業の進度によって前後することがあります。</p>				<p>駒田泰士＝潮海久雄＝山根崇邦「有斐閣ストゥディア 知的財産法Ⅱ 著作権法」（2016 年、有斐閣）</p> <p>ただし、開講までに改訂があれば、最新の版を使用します。</p>		

科目名	コンピュータネットワーク論			ガイダンス日	9/26	後期
担当教員	三谷 和史			募集人数	制限なし	
開講時間	火曜 6 講	教室	407	受講料	9,200 円	
1.授業の目的・方法 インターネットで一躍有名となったコンピュータネットワークを、その基礎の部分から応用まで、なぜそうなっているのかという技術的視点から考えながら理解することを目的とする。さらに、この理解の基盤の上で、コンピュータネットワークをどのように利用、維持、発展させていくべきかを自ら考える力を養う。 本科目の履修を通じて獲得が期待される能力・技能は以下の通りである。 ・コンピュータネットワークを構成する技術の理解と利用に関する理解 内容：通信の基礎からデータリンク、イーサネットに代表される LAN,そして IP,TCP といったネットワークプロトコル、経路制御や DNS 等の基本的アプリケーション、WWW 等の応用アプリケーション、セキュリティ等について解説を行なう。 方法：講義によって行なう。				Ethernet, IEEE802 詳細。 Internet Protocol (IP). 経路制御。 Transmission Control Protocol (TCP). インターネットの歴史。 DNS と応用アプリケーション。 ネットワークセキュリティ。		
2.授業内容 講義の進み具合により多少の増減があるが、以下の予定である。 イントロダクション、情報理論の基礎、デジタルとアナログ、符号理論の基礎、変調と多重化、通信の基礎、OSI と Ethernet、データリンク層 - BISYNC, HDLC, X.25, ATM, PPP, PPPoE,				3.履修上の注意 ・技術的な内容についての事前の準備は特に求めない。インターネットの利用者として、社会的に話題となるようなネット関係の問題について、関心を持っていることが望ましい。		
				4.使用教材 教科書は特に定めませんが、参考書としては、村井純「インターネット(ISBN13: 9784004304166)」 「インターネット II(ISBN13: 9784004305712)」 「インターネット新世代(ISBN13:9784004312277)」 (岩波新書) ジョン・M. ダヴィッドソン「はやわかり TCP/IP(ISBN13:9784320025622)」 (共立出版) A・S・タネンバウム「コンピュータネットワーク第5版」 (ISBN13:9784822284763)(日経 BP 社)を挙げておく。 講義には power point を使用する。 Web page に講義のまとめを置く予定である。 その他の参考図書については、この web page にて説明する。		

科目名	基礎数学			ガイダンス日	9/26	後期
担当教員	赤塚 広隆			募集人数	若干名	
開講時間	火曜 7 講	教室	211	受講料	9,200 円	
1.授業の目的・方法 本科目では、数学の基本的な考え方や論理を身につけることを目的として、初等整数論を学習する。整数の四則演算のように多くの人が知っていることから始め、整数の性質を説明していきたい。 本科目は基本的に板書で授業を進める。また、適宜、問題演習の時間を設ける。				11. 素数 12. 合同式 13. フェルマーの小定理 I 14. 写像 15. フェルマーの小定理 II		
2.授業内容 1. オリエンテーション 2. 様々な数、背理法 3. 論理と集合 4. 整数の除法 5. 約数、倍数 6. 公約数、最大公約数 7. ユークリッドの互除法 8. 整数係数一次方程式 9. 数学的帰納法 10. 整数係数一次方程式の理論の活用、演習				3.履修上の注意 簡単な四則演算ができれば理解できる授業を行う予定である。しかし、証明などの論理にもある程度の重点を置くつもりである。そのため、論理の積み重ねを厭わないことが求められる。		
				4.使用教材 プリントにより授業を進める。下記の web サイトで配布を行う。 http://www.otaru-uc.ac.jp/~akatsuka/ 各自印刷して授業に参加すること。また、授業中に適宜、参考書を紹介する。		

科目名	現代社会と歴史論			ガイダンス日	9/27	後期
担当教員	荻野 富士夫			募集人数	若干名	
開講時間	水曜 6 講	教室	211	受講料	9,200 円	
1.授業の目的・方法 日本映画を見る・考える 日本映画史上の名作を視聴し、近現代史の諸問題を考える。 監督でいえば、小津安二郎・亀井文雄・黒澤明・今井正らを、俳優でいえば坂東妻三郎・原節子・志村喬・吉永小百合らの作品となる。戦時下のアニメ「桃太郎 海の神兵」も見る。				2.授業内容 視聴の候補作品としては、小津安二郎「落第はしたけれど」(1930年)・山中貞雄「人情紙風船」(1937年)・亀井文雄「戦心兵隊」(1939年)・稲垣浩「無法松の一生」(1943年)・瀬尾光世「桃太郎 海の神兵」(1945年)・今井正「青い山脈」(1949年)・黒澤明「生きる」(1952年)・小津安二郎「東京物語」(1953年)・浦山桐郎「キューポラのある街」(1962年) など		
				3.履修上の注意 4.使用教材 上記の DVD 作品		

科目名	人間科学論			ガイダンス日	9/27	後期
担当教員	中川 喜直			募集人数	若干名	
開講時間	水曜 6 講	教室	307	受講料	9,200 円	
1.授業の目的・方法 高度に発達した文明社会に生まれ育つ現代の人間は豊かな文明を享受できる一方で、急速に変化する自然や社会環境に適応することを迫られている。人間科学論では人間の身体について学び、そこから創出されるスポーツ文化と健康医科学について探求する。また、健康・スポーツが社会の中で果たす役割について講義し、今後発展が予想されるスポーツ・健康産業の行方について考察をする				第6章 筋肉と運動 第7章 トレーニング学、運動処方 第8章 栄養と運動 第9章 身体活動の健康心理学 第10章 健康増進政策 第11章 スポーツ人類学 第12章 スポーツ技術方法論 第13章 競技力向上とスポーツテクノロジー 第14章 健康スポーツマネジメント 第15章 人間科学総論		
2.授業内容 講義の概要：講義の順番が変更する場合がある 第1章 からだの不思議（解剖と生理） 第2章 発育老化、体力とは 第3章 加齢と体力、疾病と体力 第4章 寿命と運動、健康と運動 第5章 体力と最大酸素摂取量、呼吸と循環				3.履修上の注意 特になし		
				4.使用教材 パワーポイントを資料にしたテキストを使用し講義を進める。VTR を資料にすることもある。		

科目名	言語文化論			ガイダンス日	9/27	後期
担当教員	山田 久就、章 天明、石井 登、 中津川 雅宣			募集人数	制限なし	
開講時間	水曜 6 講	教室	BL2	受講料	9,200 円	
1.授業の目的・方法 ・コミュニケーションの道具である言語とその背景にある文化について勉強します。現代の国際化と情報化の急速な発展は、全く異質な文化を持った個人や集団が交流・接触する機会を飛躍的に増大させ、その結果、相互の理解や合意の形成が、これまで以上に複雑かつ困難なものとなってきています。このような状況の中で、世界のさまざまな言語と文化について理解を深めていくことは、大変重要な課題となっています。 ・本授業では、各国語と各国文化を専門とする複数の教員が講義を担当し、多種多様な言語文化を学んでいきます。				Unit3 中国社会と中国の言語文化（章天明）（中国語担当）（4回） Unit4 昔と今の英語について--グローバル化と英語のゆくえ--（中津川雅宣）（英語担当）（3回） ・それぞれの Unit の授業の順番および回数に変更になる可能性があります。変更がある場合は、オリエンテーションでお知らせします。		
2.授業内容 Unit1 ロシア連邦における民族、言語、文化（山田久就）（ロシア語担当）（3回） Unit2 ラテンアメリカ文学（石井登）（スペイン語担当）（4回）				3.履修上の注意 全 Unit で試験を受けることと、2/3 以上の出席が、単位認定の前提条件となります。		
				4.使用教材 適宜プリント等を配布します。		

科目名	行政法 I			ガイダンス日	9/27	後期
担当教員	斎藤 健一郎			募集人数	制限なし	
開講時間	水曜 6 講	教室	213AL	受講料	9,200 円	
1.授業の目的・方法 行政法学の初学者を対象とし、入門書（使用教材①）の輪読を通じて行政法学の基本を学ぶ。また、各自が新聞（使用教材②）を読み、社会問題に関する記事を報告し、行政法の知識を活かして議論をすることを通じて、社会問題を批判的に検討する。 ※※重要※※ 履修者は、輪読において報告を数回行う。 履修者は、新聞記事の報告を数回行う。 報告の準備については個別指導によりアドバイスをします。				3.履修上の注意 4.使用教材 ①高橋信行『自治体職員のためのようこそ行政法』（第一法規、2017年） ②教材費 520 円（税込み）を第 2 回目の授業時に集金する。 ※※注意※※ ①必ず購入すること。授業時に使用します。 ②は新聞の購入代金です。毎回の授業後に 1 人 1 部を配ります。		
2.授業内容 行政法総論が中心です。 行政救済法・行政組織法・地方自治法も若干扱います。 ※詳細はオリエンテーションで説明します。						

科目名	経営管理論			ガイダンス日	9/27	後期
担当教員	加賀田 和弘			募集人数	5名	
開講時間	水曜 7 講	教室	305	受講料	9,200 円	
1.授業の目的・方法 経営管理とは、企業がその目的を達成するために 行う、ヒト・モノ・カネ・情報といった経営資源を、 いかに調達・配分・組み合わせ・統合するかに関す る様々な意思決定とその活動のことである。 本講義では、なかでも「ヒト」、特にその「協働体」 としての「組織」に注目し、さまざまな角度から分 析・考察する。				3.履修上の注意 4.使用教材 教科書・参考文献として『ゼミナール経営学入 門[第3版]』(伊丹敬之・加護野忠男著,日本経済新 聞社, 2003年)第Ⅱ部「組織のマネジメント」 を使用。 講義内容の理解のため、出来るだけ購入するの が望ましいが、購入しなくとも講義内容は十分把 握可能である。		
2.授業内容 授業の形式は講義形式とするが、学習内容の理解 を深める目的で映像資料の視聴、教員と学生、学生 同士の双方向のやりとりを含めたグループ・ディス カッションを複数回行うことも考えている。 講義スケジュールは以下のとおり。 なお、進行状況等に応じて変更する場合がある。						
<ul style="list-style-type: none"> ・ 経営管理論基礎 ・ 組織と個人 ・ 組織構造 ・ 動機付け ・ 経営理念と組織文化 ・ グループ・ディスカッション 						

科目名	言語学			ガイダンス日	9/28	後期
担当教員	山田 久就			募集人数	制限なし	
開講時間	木曜 6 講	教室	BL2	受講料	9,200 円	
1.授業の目的・方法 <ul style="list-style-type: none"> ・ 人間のことば(言語)を研究する学問を言語学と呼びます。言語学には広範な研究分野がありますが、言語学の基本であり、最も研究が盛んな分野は文法研究です。文法研究では、個別の言語の文法とともに、世界の諸言語の文法における多様性と一般性・普遍性が研究の対象になります。文法研究の各分野における研究対象(どのようなことに関心が持たれるのか)と研究方法(どのように研究するのか)について学びます。 ・ コンピュータ画面をスクリーンに投射して授業を進めます。 				3.履修上の注意 <ul style="list-style-type: none"> ・ より具体的な情報を下記のサイトに載せているので参考にしてください。 http://www.otaru-uc.ac.jp/~hisanari/cl/linguistics (学内からのみアクセス可) ・ 基本的には、メールでの問い合わせに対応しません。 		
2.授業内容 <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界の言語 ・ 音声学と音韻論(音についての研究) ・ 形態論(語のしくみについての研究) ・ 統語論(文のしくみについての研究) 				4.使用教材 <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的には、コンピュータ画面をスクリーンに投射したものを主教材とします。 ・ 参考資料として、プリントを配布します。一部を除き、配布したプリントは下記のサイトに pdf ファイルで置きます。 http://www.otaru-uc.ac.jp/~hisanari/cl/linguistics (学内からのみアクセス可) 同じファイルを manaba にも置く予定。 		

科目名	生物学Ⅱ			ガイダンス日	9/28	後期
担当教員	八木 宏樹			募集人数	若干名	
開講時間	木曜 6 講	教室	305	受講料	9,200 円	
1.授業の目的・方法 目的：すべて生物は環境要因の変動に何らかの影響を受けている。それは人間の社会活動が起因している場合が少なくない。いかにして人間は環境を破壊してきたのか、生物はどのように環境破壊に対して反応するのか、海洋や河川の環境変化と生物との関係を中心に学ぶことにより、環境と調和して生きていく方法を考える。 とりわけ温度や気候などの変動と、生物の個体としての生理反応、群集としての生態的反応、あるいは多くの生物で構成される生態系の変化などを中心として学ぶ。サブテーマは「水と生物」。 方法：OHPもしくはパワーポイントを用いた講義を中心とする。				第6回 水と生物 海洋汚染と生物濃縮 第7回 水と生物 海洋汚染と生態系の破壊 第8回 水と生物 海の砂漠化：磯焼けの話 第9回 水と生物 サンゴ礁とマングローブ林の破壊と保全 第10回 水と生物 干潟の機能と生産力 第11回 水と生物 干潟の保全 第12回 水と生物 川のしくみと機能 第13回 水と生物 酸性雨が及ぼす生物への影響 第14回 水と生物 地球温暖化と生物 第15回 まとめ		
2.授業内容 第1回 ガイダンスと環境生物学へのアプローチ 第2回 水と生物 地球と海のしくみ 第3回 水と生物 海洋の物質循環のしくみ 第4回 水と生物 食物連鎖と生物生産のしくみ 第5回 水と生物 赤潮と青潮				3.履修上の注意 環境変動と生物への影響および人間が生物に及ぼす影響などを主に講義を進めるので、日頃から身の回りにある「生物」や「環境」に注意を払っておくこと。		
				4.使用教材 テキスト：とくに指定しない。 参考書：「海と海洋汚染」（三共出版）、「環境と生態・人間と地球」（培風館）、「環境生物学」（森北出版）		

科目名	市場システム論Ⅱ			ガイダンス日	9/28	後期
担当教員	高宮城 朝則			募集人数	5 名	
開講時間	木曜 6 講	教室	406	受講料	9,200 円	
1.授業の目的・方法 市場システムにおける具体的な活動は、企業によるマーケティングとして行われます。マーケティング論は企業が市場に対してどのように働きかけるのかを分析することを目的としています。マーケティング論の入門科目である本講義においては、マーケティング論の基礎的な概念や視点、論理などを、主に教科書の解説や事例に基づきながら理解につとめます。 なお授業内容は、前期開講の「市場システム論Ⅰ」をベースとして、継続・発展させるものとなります。				授業は毎回、教科書の1ユニットずつ進めます。受講者は教科書の該当部分を予習しておくことが必要です。 授業では概要の説明ののち、トピックにかかわる質疑応答を行います。その後、事例についてディスカッションを行います。 またトピックにかかわる課題に取り組んでもらいます。		
2.授業内容 教科書の第5章から第9章の内容 1. プロモーション政策 2. 流通政策 3. マーケティング政策の統合 4. マーケティング・リソース戦略 5. マーケティング理論の変遷				3.履修上の注意 本授業は前期に開講される市場システム論Ⅰにつづいた内容となります。マーケティングをより良く理解するために、市場システム論Ⅰ・Ⅱとともに履修することをお勧めします。またⅠの未修者やマーケティングの初学者は教科書の前半（第1～4章）を読んでおいてください。		
				4.使用教材 教科書：黒岩健一郎・水越康介（2012）『マーケティングをつかむ』有斐閣		

科目名	簿記原理		ガイダンス日	9/28	後期
担当教員	A：二村 雅子、B：坂柳 明		募集人数	各5名	
開講時間	木曜6講	教室	A:210 B:104	受講料	
1.授業の目的・方法			この授業で扱う内容としては、以下のものを考えている。どの内容をどの程度掘り下げるかは、授業の進度による。なお、練習問題やそれに関連する議論を、ある程度網羅的に盛り込まざるを得ないため、この授業では、配布プリントが多くなる(1回あたり、A4で5~10枚)。 (1): 簿記の必要性、(2): 仕訳、勘定、(3): 個別論点(現金、当座預金、手形取引、掛取引、商品売買取引、帳簿の締切、経過勘定、引当金、減価償却等)の解説、(4): 様々な帳簿、試算表と精算表、貸借対照表と損益計算書の解説		
<p>【A】 簿記の初学者を対象とした科目である。現在用いられている複式簿記についての基礎的な技術を体系的に理解することがこの授業の目的である。授業は、簿記に必要な基礎概念および個々の会計処理方法について、教科書を利用して説明を行う。 会計のルールに基づいた基本的な会計処理の理解はより進んだ会計処理を学習するにあたって基本となる。また、会計処理の理解は会計のルールについて考える財務会計論や各国の会計処理の比較を行う時に基礎となる。</p> <p>【B】 この授業では、営利活動を営む会社の事業活動の結果を計数的に把握する手段としての簿記を学習し、それを通じて、大学を卒業する社会人に求められる簿記の知識の修得を目指す。 この授業では、練習問題を多く取り入れ、会計処理(仕訳処理)に慣れてもらう。また、この授業は、「財務会計論」等の会計系の科目を学習する上での基礎を提供する。</p>					
2.授業内容			3.履修上の注意		
<p>【A】</p> <ol style="list-style-type: none"> 簿記の社会的役割と基礎概念 勘定と仕訳 個別論点 (現金預金、商品売買、売掛金・買掛金、経過勘定、引当金等) 帳簿記入 貸借対照表と損益計算書 <p>【B】 この授業では、簿記についての必要な知識の修得に主眼を置くため、講義形式によって授業を行う。また、授業内容の理解の確認のために、授業中に、適宜練習問題の解答を受講生に尋ねる。</p>			<p>【A】 各学年の学生番号の下2桁が01-30の学生に限る。 簿記の授業は、1回1回の完結型の授業ではなく、前回学習したことを前提に授業を進めていくこととなります。それゆえ、しっかり復習してください。欠席した場合は各自で自習をして次の授業に臨んでください。 授業には電卓を持参してください。</p> <p>【B】 授業が難しい、あるいはやさしいと感じた人は、適宜、市販の簿記の問題集、参考書等で知識の補充、確認、先取り学習を行ってください。また、授業中の配布プリントは多くなることが予想されるため、プリントを読むのが面倒な人には、この授業は勧めません。 また、この授業は、夜間主コースに所属する学生の、各学年の学生番号の下3桁が、031以降の学生のみ履修できます。</p>		
4.使用教材					
			<p>【A】 教科書(授業で利用します) 久野光朗編(2007)『新版 簿記論テキスト』同文館。</p> <p>【B】 久野光朗編、『簿記論テキスト[新版]』, 同文館出版, 2007年。その他の文献は、授業で紹介する。</p>		

科目名	商法 I			ガイダンス日	9/28	後期
担当教員	河森 計二			募集人数	制限なし	
開講時間	木曜 6 講	教室	413	受講料	9,200 円	
1.授業の目的・方法 (授業の目的) この講義は、会社法について扱います。この講義では、会社形態のなかでその数が最も多く国民経済に影響のある株式会社を中心に、そもそも会社とは何か、株式会社はどのように設立するのか、株式はどのように取引が行われているのか、会社の役員になるとどのような責任があるのか、株主と役員の利害が衝突した場合はどのように考えるべきか、会社を合併するにはどうすればよいのか、など、具体的な事例を紹介しながら解説します。なお、この講義は 2 単位科目のため、会社法を取り巻く法制度の内容に一部割愛しなければならない部分があります。そのため、この講義では、会社法の基本的な枠組みを理解することに努めてください。 (授業の方法) この授業では、PowerPoint を使用します。また、毎回レジュメを配付して、具体的な事例をみんなで考え、参照しながら解説するという方法で行いたいと思います。				2.授業内容 1.会社法の構造 2.会社の種類 3.会社の意義と目的 4.会社法の基本原則 5.経営の決定と責任 6.経営の監督 7.株主の役割 8.会社の資金調達 9.組織再編 10.企業買収とその防衛策		
				3.履修上の注意 その他、詳細はガイダンスでお話します。		
				4.使用教材 (1)教科書：山下真弘(編著)『会社法の道案内』(法律文化社、2015 年) (2)その他、講義ではレジュメ等を配付します。		

科目名	プロジェクトマネジメント基礎			ガイダンス日	9/28	後期
担当教員	平沢 尚毅、深田 秀実			募集人数	制限なし	
開講時間	木曜 6 講	教室	213	受講料	9,200 円	
1.授業の目的・方法 現実社会は、人々が「何かことを成す」ことによって動いています。人を動かし、目的を達成するための知識は、本を読んだり授業を聞くだけでは身につかず、自分で積極的に活動し、プロジェクトに参加しなければ、得ることができません。 本授業では、参加者のグループワーク(擬似プロジェクトへの参加)を通じてプロジェクトマネジメント知識の体得を目標に置いています。 この講義では、受講生同士の授業時間以外のスケジュール調整やリーダーシップの発揮に「真剣に」取り組むことが求められます。				第 1 回 ガイダンスグループ分け 第 2-5 回 プロジェクトマネージメントの基礎技能 第 6 回 実施計画に関するプレゼンテーション 第 7-10 回 プロジェクト運営のための基礎技能 第 11 回 中間報告プレゼンテーション 第 12~14 回 プロジェクト終結のための基礎技能 第 15 回 最終プレゼンテーション		
2.授業内容 受講者は数人程度のグループに分かれ、情報サイトの要件開発に関する調査の企画、実施、まとめ、発表などの各段階でグループでの議論と作業を行い、その経過を授業時間で報告してもらいます。 また、各グループの発表や報告を通じて「プロジェクトマネジメント」について考察し、個人レポートを提出することも義務づけられます。				3.履修上の注意 他の参加者の迷惑になるので、安易な気持ちで履修届けを出さないこと。必ず、オリエンテーションに参加すること。また、基本的な情報リテラシーは必要ですので、事前に準備しておくこと。		
				4.使用教材 必要に応じ、資料、シートを配布。参加者が準備しなければならないものもあるが、その都度指示します。		

科目名	公共政策			ガイダンス日	9/28	後期
担当教員	佐野 博之			募集人数	10名	
開講時間	木曜 7 講	教室	305	受講料	9,200 円	
1.授業の目的・方法				3.履修上の注意		
<p>本講義では、公共経済学の理論的な知見を基にして、現実の公共政策に関わる諸問題を、学生が主体的に検討し論じていきます。経済学の基礎を学んだことのある学生が、さらに進んで、経済理論の応用力を身につけることをねらいとします。</p>				<ul style="list-style-type: none"> • ディスカッションの形式の詳細は履修者数が確定してから決めます。履修者数が少なければ各自にプレゼンテーションを行っていただきますが、多い場合はレポートを課すことにします。 • ディスカッションのテーマは、履修者の希望を考慮に入れたうえで、「基礎編」の講義が終了するまでに決定します。ディスカッションテーマ次第で「応用編」の講義内容を変更する可能性があります。 • 「基礎編」の講義終了後に小テストを行います。 • 「基礎編」以外は毎回出席を取り、出席点として評価に加味します。 		
2.授業内容				4.使用教材		
<p>講義の序盤は「基礎編」とし、公共政策を理解する上で必要な経済理論を講義します。次に、「応用編」として公共財供給問題と投票による意思決定問題を取り上げ、それらの基本的な内容を講義します。最後に、「ディスカッション編」として、実際に行われているいくつかの個別の政策を取り上げ、出席者の間でディスカッションを行います。</p> <p>授業スケジュールの概要は以下の通りです。</p> <p><基礎編></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 市場メカニズム 2. 市場の失敗 3. 所得分配問題 4. 小テスト <p><応用編></p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 公共財とフリーライド問題 6. 公共財の公的供給 7. 投票行動 8. 民主主義社会における政策決定 <p><ディスカッション編></p> <ol style="list-style-type: none"> 9~11. テーマ1 12~14. テーマ2 				<p>テキストは特に指定しません。オリエンテーションまたは授業中に適宜参考文献を紹介します。また、講義中のスライドに対応したノートは、manaba からダウンロードできます。</p>		

科目名	国際法			ガイダンス日	9/28	後期
担当教員	張 博一			募集人数	制限なし	
開講時間	木曜 7 講	教室	413	受講料	9,200 円	
1.授業の目的・方法				第 7 回 南極、海、空、宇宙の国際法：中国による南沙諸島埋め立ては違法？		
国際社会にも、国内社会と同様、「法」が存在するのか。存在するとすれば、武力紛争を含めて、なぜ多くの国際問題が解決されないのか。国家と国家の利益が対立した場合に、国際社会の「法」は無効なのか。				第 8 回 国際人権法：ヘイトスピーチも表現の自由？		
本講義の主題は、国際的な時事問題を国際法の視点から解説することである。国際法は国際社会の基本的枠組を定めており、国際的な時事問題の多くはこの枠組と密接に関係する。毎回、1 つ以上の国際時事問題を取り上げ、関係する国際法の知識を紹介しつつ解説する。				第 9 回 国際人権法：難民の権利と日本の難民認定制度		
授業は基本的にレジュメに沿って講義形式で行う。国際法初心者にも理解してもらえよう努めたい。国際法の知識はないが、日々ニュースや新聞で報じられている国際問題に少しでも関心のある方の履修を歓迎する。				第 10 回 逃亡犯罪人の引渡：犯罪者は逃げ得？		
2.授業内容				第 11 回 国際経済活動と法：世界貿易機関(WTO)と TPP		
第 1 回 講義全体についてのガイダンス：国際法とは何か				第 12 回 環境保護のための枠組み条約体制：ポスト京都議定書交渉はいま		
第 2 回 国際社会の構成員：国家；個人；国際機構；企業；NGO				第 13 回 紛争の平和的解決：日本の捕鯨活動は何が問題か？		
第 3 回 国際法と国内法：両者の関係；国内法秩序における国際法の適用				第 14 回 武力・経済力の行使と国際法：北朝鮮に対する経済「制裁」		
第 4 回 国家承認：イスラーム国は国か？				第 15 回 武力・経済力の行使と国際法：集団的自衛権とは？		
第 5 回 国家管轄権：日本の裁判所で外国国家を訴える？				3.履修上の注意		
第 6 回 陸の国際法：領土紛争での「固有の領土」とは何か？				特になし		
				4.使用教材		
				教科書は指定しない。		
				参考文献：		
				松井芳郎他『国際法〔第 5 版〕』（有斐閣・2007）		
				浅田正彦編『国際法〔第 2 版〕』（東信堂・2013）		
				中谷和弘他『国際法〔第 3 版〕』（有斐閣・2016 年）		

科目名	経済法			ガイダンス日	9/29	後期
担当教員	姜 連甲			募集人数	制限なし	
開講時間	金曜 6 講	教室	413	受講料	9,200 円	
1.授業の目的・方法 「経済法」と呼ばれる法分野は、経済活動を規律する法規の総称である。その中心的な位置を占めるのは、経済憲法とも呼ばれる「独占禁止法（正式名称は「私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律）」である。 近年、市場における「競争」の重要性が強く意識され、カルテル・入札談合など企業の独占禁止法違反事件に関する報道をよく目にするようになってきている。また、独占禁止法は企業間取引のみに関わる法律ではなく、われわれの日常生活とも関係のある法律でもある。複数回にわたる独占禁止法改正により、独占禁止法の規制が強化され、その内容及び運用に対する関心も高まりつつある。 独占禁止法は、経済活動をあまねく規律する法律であるため、一般的・抽象的な条文で成り立っている。そこで条文の意義や運用の実態を知るには、裁判所の判決や公正取引委員会の審決を検討しなければならない。また、公正取引委員会は実務における運用ルールを明らかにするために、特定の分野に対する同法の運用指針（ガイドライン）を数多く公表しているため、これらを読み解くことも必要になる。 本講義の「総論」では、まず日本の独占禁止法の由来や沿革から同法の歴史を学び、次いで同法の理解に欠かせない全体の構成や基本概念等を学ぶ。その後の各論では、規制類型ごとに具体的な法運用を検討する。基本的に教材や配布資料に沿って講義を進める。				第 6 回 カルテルの規制 (2) (価格・数量・販路・市場分割カルテルと事例) 第 7 回 カルテルの規制 (3) (入札談合と事例) 第 8 回 カルテルの規制 (4) (行政指導、官製談合と事例) 第 9 回 不公正な取引方法の規制 (1) (基本概念と違法要件の解説) 第 10 回 不公正な取引方法の規制 (2) (行為類型と事例) 第 11 回 不公正な取引方法の規制 (3) (行為類型と事例) 第 12 回 不公正な取引方法の規制 (4) (行為類型と事例) 第 13 回 事業者団体の行動規制 第 14 回 結合・集中の規制 【総括】 第 15 回 全体のまとめ		
2.授業内容 【総論】 第 1 回 独占禁止法の規制体系と基本概念 【各論】 第 2 回 私的独占の禁止 (1) (基本概念と違法要件の解説) 第 3 回 私的独占の禁止 (2) (排除行為と事例) 第 4 回 私的独占の禁止 (3) (支配行為と事例) 第 5 回 カルテルの規制 (1) (基本概念と違法要件の解説)				3.履修上の注意 (1) 受講の際には、教材だけでなく、六法も持参すること。ただし、用意できない場合は、独占禁止法の条文コピーでも良い。 (2) 期末試験では、六法の持ち込みは認める。 (3) 講義中の遅刻や私語は学習態度の評価に良くない影響を及ぼすため、各自に注意すること。また、講義中、討論への積極的な参加は良い成績評価に繋がる。		
4.使用教材 教科書：岸井大太郎、大槻文俊、和田健夫、川島富士雄、向田直範、稗貴俊文/著『経済法—独占禁止法と競争政策 [第 8 版]』(2016)。 参考書：舟田正之、金井貴嗣、泉水文雄/編『経済法判例・審決百選』別冊ジュリスト判例百選 199 号 (2010)。						

科目名	情報処理基礎			ガイダンス日	9/29	後期
担当教員	佐藤 剛			募集人数	制限なし	
開講時間	金曜 6 講	教室	401	受講料	9,200 円	
1.授業の目的・方法 情報理論、コンピュータシステムおよびインターネットに関する基礎的な事柄について学習する。 情報処理, ソフトウェア科学(昼間コース開講), コンピュータネットワーク論等の上位科目につながる基礎的な知識の習得を主目的とする。				3.履修上の注意 4.使用教材 ・教科書 著者: Brian W. Kernighan 訳者: 久野靖 書名: デジタル作法 カーニハン先生の「情報」教室 出版社: オーム社		
2.授業内容 以下の事柄について教科書を中心に学ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・2進数による情報の表現 ・コンピュータ(ハードウェア)の基本的な動作原理 ・オペレーティングシステム(OS)のしくみと役割 ・コンピュータソフトウェアの基礎(アルゴリズム, プログラム作成法) ・ネットワーク(インターネット)の基本的な動作原理 ・ネットワークセキュリティ ・デジタル情報の特性と安全性および倫理上の問題 						

科目名	現代企業管理論Ⅱ			ガイダンス日	9/29	後期
担当教員	林 松国			募集人数	5 名	
開講時間	金曜 7 講	教室	406	受講料	9,200 円	
1.授業の目的・方法 現代企業管理論Ⅱでは中小企業について学ぶ。中小企業は経済的にも社会的にも大企業と異なる独自の役割を果たしている。 本講義では、中小企業に関する基礎知識を理解したうえで、中小企業の諸特徴を踏まえつつ、主に、中小企業の発展性と問題性、中小企業の社会的分業関係、中小企業の経営戦略といった側面から中小企業について体系的に学ぶ。				第 11 回 ベンチャー企業への支援 第 12 回 中小企業金融 第 13 回 中小企業の海外進出 第 14 回 東アジアの中小企業 第 15 回 まとめ		
2.授業内容 第 1 回 オリエンテーション、中小企業とは何か 第 2 回 中小企業の経営特性 第 3 回 中小企業の発展性 第 4 回 中小企業の問題性 第 5 回 産業集積と中小企業 第 6 回 下請システム 第 7 回 下請中小企業の自立化 第 8 回 中小企業の経営戦略① 第 9 回 中小企業の経営戦略② 第 10 回 ベンチャー企業の経営				3.履修上の注意 経営学関連の内容が多いので、経営学分野の他の授業を併せて受講することが望ましい。また、経済・産業の動きについて、日ごろから新聞・ニュースを見ることを勧める。		
				4.使用教材 <教科書> 渡辺幸男・小川正博・黒瀬直宏・向山雅夫(2013)『21世紀中小企業論』有斐閣アルマ <参考書> 黒瀬直宏(2012)『複眼的中小企業論：中小企業は発展性と問題性の統一物』同友館 松野周治・今田治・林松国編著(2016)『東アジアの地域経済発展と中小企業』晃洋書房		

科目名	社会情報入門			ガイダンス日	9/29	後期
担当教員	阿部 孝太郎、小泉 大城			募集人数	制限なし	
開講時間	金曜 7 講	教室	407	受講料	9,200 円	
1.授業の目的・方法				<ul style="list-style-type: none"> ・社会情報学の概論—アップルを素材にして ・技術の経済学と社会学--電話と自動車の社会史を例に ・技術革新の普及過程とネットワーク--流行はいかに広まるのか? ・情報産業と地域経済--シリコンバレーを中心に ・ナレッジ・マネジメント--知識や情報とは何か 		
<p>本科目は、社会情報学科の専門領域への導入科目です。</p> <p>本学科の専門分野に関する基礎的事項や各種トピックを解説することにより、2年次以降で学ぶことの概要について理解してもらうことを目的とします。</p> <p>前半（担当：阿部）では、社会情報学の概略を学びます。</p> <p>後半（担当：小泉）では、統計学の入門的講義を行います。近年の情報技術の発達にともない、観測データから客観的な知見を見出す方法論の重要性が高まっています。こうした方法論の入門的なスキルについて解説します。</p>						
2.授業内容				3.履修上の注意		
<p>●前半（阿部）：社会情報学の概略</p> <p>社会情報学とは、IT が普及した社会はどのようなものになるのか、といった疑問から始まりました。では、商学部の中の社会情報学とは、どのような役割が求められるのでしょうか？ 本講のポイントを先取りするなら、画期的な新技術が必ずしも広まるわけではない、それはなぜかを追求することと言えるでしょう。それらを踏まえて、以下のような内容で講義を行います。</p>				<p>4.使用教材</p> <p>●前半（阿部）：映画のほか、適宜資料を配布します。</p> <p>●後半（小泉）：適宜資料を配布します。 （参考文献）倉田博史，星野崇弘 共著，「入門統計解析」，新世社，2009.</p>		

2017年度 行事予定

【後期】

- 9月25日(月) 後期授業開始
- 12月23日(土)～1月9日(火) 冬季休業
- 1月12日(金) 臨時休業(センター試験のため)
- 1月24日(水) 金曜の授業日(水曜の授業は行わない)
- 1月29日(月) 後期授業終了
- 1月30日(火) 補講日
- 1月31日(水) 補講日
- 2月1日(木)～8日(木) 後期期末試験期間

★行事予定に変更があった場合は、掲示でお知らせしますので、掲示には十分注意してください。

◆◇公開講座の受講にあたっての注意とお願い◆◇

① 受講生の呼び出し等

授業中その他、受講生の呼び出し等には、対応できかねますので、あらかじめご了承ください。また、授業中は、携帯電話の電源をお切り下さい。

② 受講生の義務

受講生は、受講にあたり本学が行う教育及び研究に支障が及ぶことがないように努めていただくとともに、授業担当教員の指示に従って下さい。

③ 受講の停止

受講生が義務に違反し、本学秩序を乱し、又は受講生としてふさわしくない言動があった場合には、受講を停止することもあります。

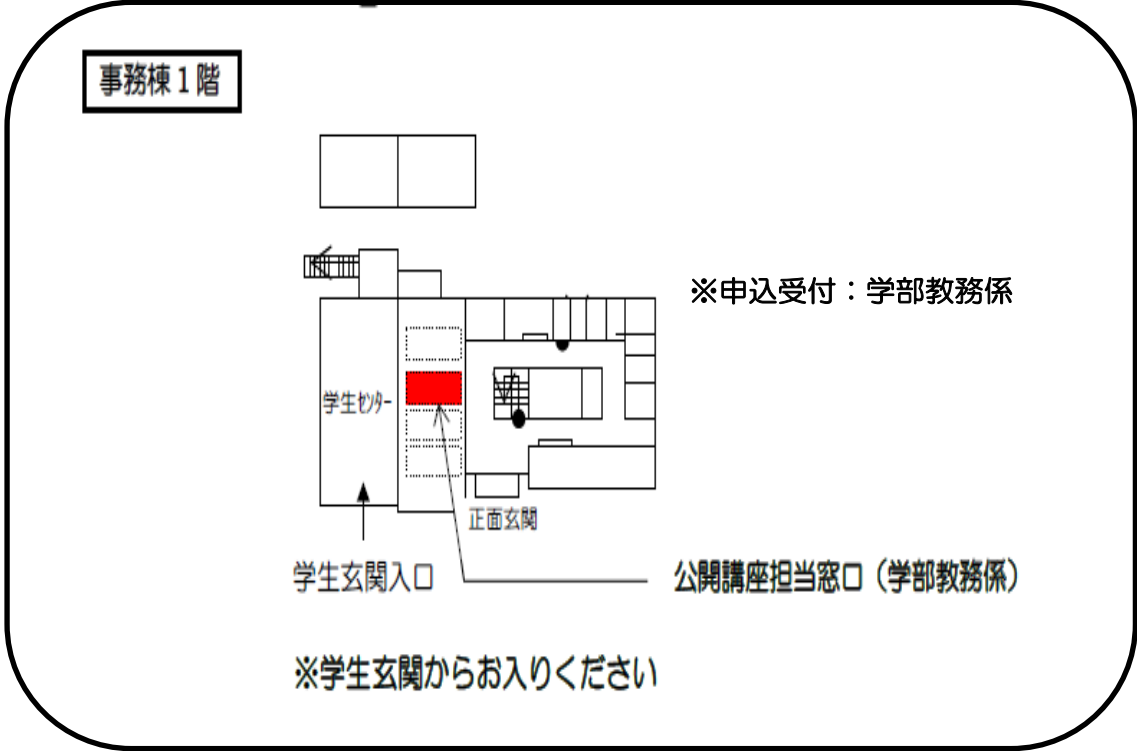
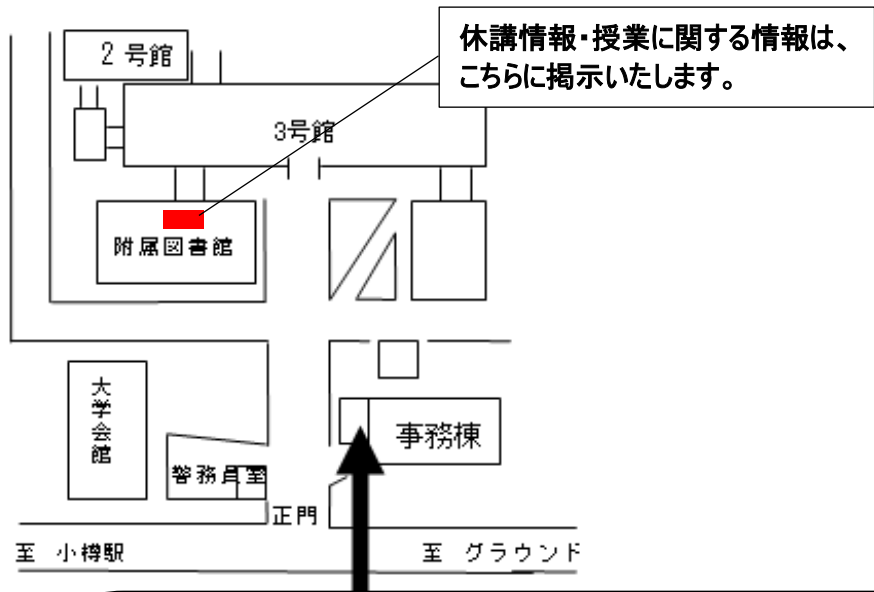
④ 事故・盗難等

学内における事故・盗難等について、大学側では責任を負いかねますので十分気をつけて下さい。

⑤ 損害賠償

受講生が本学の施設、設備等を破損したときは、その損害を賠償しなければならないことがあります。

学内案内図(受付場所)



小樽駅から小樽商科大学まで

- ◇小樽駅前JRバスターミナル乗り場3番より「小樽商大線(中央バス)」に乗車「小樽商大前」下車(この間約10分)。料金は220円。
- ◇小樽駅前からタクシーで約5分。料金は約800円。
- ◇小樽駅前から徒歩で約30分

公開講座会場

2号館5階

